



地域社会になじむ支援

地域との関係づくりをしていますか？

外国人介護職員の家族に対する支援を行っていますか？

例えば、こんな支援・・・

事業所周辺の地域との関係づくり

事業所では、地域との関係づくりのため、イベントに近隣住民を招いたり、地域の行事に職員が参加したりすることもあるでしょう。

このような機会を活用して、外国人職員が地域に馴染む機会をつくりましょう。例えば、事業所が外国人介護職員の出身国の食事や文化を披露するイベントを開催すれば、地域住民に関心を持ってもらうきっかけになります。

外国人介護職員の家族に対する支援

外国人職員の中には、家族とともに日本で生活する人もいます。外国人介護職員が安心して仕事ができるよう、家族に対する支援もできるとよいでしょう。法人・事業所の中には、例えば、家族に対する日本語教室等のコミュニケーション支援や、メンタルヘルスケア、子どもの保育・教育支援を行うところが見られます。

地域で「生活基盤を整える支援」や「地域社会になじむ支援」に取り組む団体もあります

すみだ日本語教育支援の会 ～地域への受入れのゲートとなる日本語教室～

2008年に発足した「すみだ日本語教育支援の会」(*)によって、墨田区(近隣含む)の介護業界で働く外国人のために、「介護の日本語」に特化した日本語教室が開設されました。

日本語教室は毎週金曜日に、日本語講師2名と地域のボランティア約5名によって開講され、登録した外国人が自由に参加できるようになっています。受講料は無料で、口コミによって受講生は年々増えています。

(*) 早稲田大学、社会福祉法人賛育会、地域のボランティア団体「NPO法人てーねん・どすこい倶楽部」が中心となって発足

◆日本語は「教える」ではなく「寄り添って一緒に考える」

日本語教室では、受講生のレベルに合わせた5つのカリキュラムを設定しています。外国人を歓迎している気持ちを示すため、受講生に日本語を「教える」のではなく、ボランティアが「寄り添って一緒に考える」方針としています。そうすることで、外国人と日本人との間に生じがちな「見えない壁」を取り払うことができます。

◆教室の人達とのつながりにより地域共生が育まれている

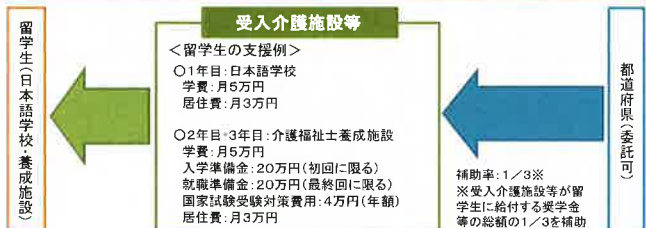
教室の終了後は、受講者同士で食事等に行くこともあります。また、ボランティアと受講生が母国へ旅行に行ったり、受講生がボランティアに悩みを相談することもあります。

「何かあったら日本語教室の人達が助けてくれる」という安心感、感謝の思いから「地域に恩返しをしたい」と、ボランティアグループを立ち上げることもつながっています。

独自の奨学金制度を設ける法人・事業所もあります

介護福祉士養成校に通う留学生の学費については、都道府県(都道府県から事業を受託している団体)が窓口になっている「介護福祉士等修学資金貸付制度」を活用することができます。

また、一部には独自の奨学金制度を設けている法人もあります。都道府県によっては、こうした法人の介護施設等が介護福祉士養成校に留学する留学生に奨学金を給付等した場合、その費用の一部を助成する事業を実施している場合がありますので確認してみるとよいでしょう。



【目的】介護福祉士の資格取得を目指す外国人が、直接又は日本語学校を経由して介護福祉士養成施設に留学するケースが増加することが見込まれることから、当該留学生に対して、留学生の就労予定先の介護施設等が支援する奨学金に係る費用の一部を助成する。(地域医療介護総合確保基金「介護施設等による外国人留学生への奨学金等の支給に係る支援事業」)

(出典) 厚生労働省資料